

8月6日(木曜日) 受付 9:50から

○ 開会式 (10時20分~10時30分) 会場；当日受付にてお知らせします。

研究会会長挨拶、大会オリエンテーション (各会場にて)

【10:30~12:10】

1 A 「言語発達遅滞の評価と支援」

東京学芸大学 藤野 博

言語発達遅滞には、自閉症スペクトラム障害(ASD)を背景とする場合や、音声言語のみに問題のある特異的言語発達障害(SLI)などがあり、また、社会(語用性)コミュニケーション障害(SCD)という新たな障害のタイプも今日注目されています。本講義ではそれらの障害についての概説とアセスメントの方法、具体的な指導法・教材例などについて、最新の情報もまじえ基礎から解説します。

1 B 「吃音の基礎知識と新たな視点」

東京学芸大学 伊藤 友彦

吃音については不明な点が多いことは事実ですが、だからこそ、言語障害を専門領域とする人が教育現場にいること、すなわち、ことばの教室の先生の役割がとても大切になると私は考えています。この講義では、これまで多くの人々の努力によって明らかになってきた吃音の基礎知識と、現在明らかになりつつある最新の知見をわかりやすく紹介し、今後の指導、支援の方向についても述べたいと思います。

1 C 「言語障害児の保育と教育」

東京学芸大学名誉教授 谷 俊治

言語障害児教育の保育と教育の本質を探るため、今回は場面緘黙の事例を紹介し、診断・指導を進めるための考え方について解説します。言語障害の原因は森羅万象と言われていています。その原因を探り出すためには多面的な情報が必要です。交流分析、描画テスト、マズローの欲求階層説、脳の機能などを利用した診断・指導のプロセスをできるだけ具体的に説明しようと考えています。

○ 昼食 (12時10分~13時20分) 食堂にて

【13:20~15:00】

2 A 「聴覚障害児の評価と支援」

筑波技術大学 長南 浩人

発達の早期に聴覚障害を有した子どもの多くは、言語や学力、社会性など精神発達の多様な面で健聴児とは異なる育ちを見せるといわれています。本講座では、その具体例を紹介し、心理的考察を加え、さらに言語発達や学力向上に関する支援の方策を主に考えます。また聴覚障害児を対象とした評価法についても概観します。

2 B 「吃音児の理解と支援の実際」

金沢大学 小林 宏明

吃音のある子どもの指導・支援においては、発話の非流暢性へのアプローチだけでなく、吃音に対する情緒・行動・認知、言語・認知・運動発達、情緒・情動、自己認識や全般的な性格、吃音のある子どもを取り巻く環境などに対して多面的・包括的に対処する必要があります。本講座では、吃音のある子どもの指導・支援の実際について、事例の紹介を交えながら、具体的に解説したいと思います。

2 C 「子どもの発達を促す関わりことば」

公益社団法人 発達協会/早稲田大学 湯汲 英史

子どもが発達する目的ですが、「自分で考えて判断し、適切な振る舞いが取れるようになること」とされます。子どもが判断するときには、基準が必要となります。ところが子どもは、大人のような判断基準を持たずに生まれてきます。大人が子どもに伝えるべき、社会性の育ちと密接に関係する「判断基準=関わりことば」について紹介します。

【15:20~17:00】

3 A 「構音障害の評価と支援」

元西東京市立保谷小学校 中村 勝則

発音を改善するためには、指導者には子どもの発音の状態を的確に評価する力が、子どもには音を聞き分ける鋭い耳と思い通りに動く口が必要です。そのような評価力を身につけるための手立てと子どもの耳と口を育てるための具体的な指導法を紹介しながら、構音指導の基本的な枠組を皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

3 B 「聴覚障害児の支援の実際」

東京学芸大学 濱田 豊彦

聴覚障害は単にコミュニケーションの困難を生むだけでなく、子どもの発達に影響を与えます。その中でも特に大きいのが「言語獲得」が円滑に行かないことです。この講座では、言語獲得とはそもそもどういうものなのか、また聴覚障害児の言語の課題をどの様に見立てると指導の見通しが立ちやすいのかを説明します。その上で聞こえない子ども達の言語指導の要点について講義します。

3 C 「言語発達遅滞の支援の実際」

東京学芸大学 大伴 潔

本講座では、「語彙を育てる」「文を構成する」「文章で表現する」「効果的に伝える」といった言語領域の発達過程を概観しながら、適切な支援目標の立案と、興味を持たせる課題を通じた支援について考えていきます。言語評価法の例として学齢児版のアセスメント「LCSA」を取り上げ目標設定のあり方を考えるとともに、言語発達支援の効果的なアプローチについて検討します。

8月7日(金曜日) 8/7から参加の方の受付 8:50から

【9:15~10:55】

4A 「事例検討の意義と進め方」

有明教育芸術短期大学 羽田 紘一

言語障害児の指導を進める際には、子どもの状況の改善に適した指導が行えているか否かを、一定期間の指導が進められた時点で、検証する必要があります。その検証の方法としては、「事例検討・事例研究」を定期的に行うことが有効です。この講座では、『短縮事例法』という方法を紹介し、演習を行います。

4B 「側音化構音・口蓋化構音の指導 I ~歪み音の理解と聞き取り」

帝京平成大学 山下 夕香里

側音化構音や口蓋化構音は歪み音なので、慣れていないと聞き取りが難しく、指導で悩まれる先生方が多いのが現状です。いろいろなお子さんの発音の動画を見ていただき、聞き取りのポイントや舌の動きの観察法についてお話しします。はじめての先生方も是非ご参加下さい。

4C 「幼児のことばの相談」と「保育臨床相談」~子どもが学び育つことばの相談・支援~

國學院大學 野本 茂夫

子どもがより良く育つことを第一に支援のあり方を考えます。この講座では、幼児のことばや聴こえ、人とのコミュニケーションに関わる問題への対応がテーマです。人生の基礎基本が育まれる幼児期のことばを巡る問題は、氷山の一角のように水面下に隠れている要因への対応が肝要です。また、ことばの問題が絡んで裾野を広げる発達障害への対応も含め幼児の相談・支援のあり方を考えます。

【11:15~12:55】

5A 「事例で学ぶ描画テストの解釈」

國學院大學 石川 清明

コミュニケーションに障がいのある子どもの指導に「描画テスト(樹木画を中心に)」を活用するための基礎を学びます。本年度は幼児から成人までの樹木画を対象にして、解釈の進め方の実際について小グループでの演習形式で体験し、理解を深めたいと考えています。初めて参加する先生方のために基礎理論とテストの実施方法にもふれる予定です。鉛筆と消しゴムを持ってご参加ください。

5B 「側音化構音・口蓋化構音の指導 II ~舌を平らにする方法」

帝京平成大学 山下 夕香里

側音化構音や口蓋化構音のお子さんは、発音時に舌の奥がもりあがり、前に出そうとすると細長く緊張します。舌を横に広げて平らに保ち、舌の横の感覚や舌先のコントロール性を高めると音の指導がやりやすくなります。舌のトレーニングを実際に体験していただきたいと思います。鏡、舌圧子、ストロー(細いもの)、ペンライトなどをご用意ください。ご一緒に練習してみましょう。

5C 「WISC-IV~その解釈と活用」

船橋市立三咲小学校 大山 恭子

発達障害を持つ子どもに対して効果的な支援を行うためには、行動観察や検査等による適切な実態把握が不可欠です。そこで、WISC-IVの検査結果の解釈の仕方を学び、得意な認知能力を活用した具体的な支援の方法や、事例を通じた実際の支援への活用の仕方をご紹介します。

○ 昼食 (12時55分~14時00分) 食堂にて

【14:00~16:10】

6A 大会講演 「音楽療法による遊びの支援」

NPO音楽療法の会武蔵野理事長 音楽療法士 藤本 禮子

日本音楽療法学会では、「音楽療法とは、音楽の持つ生理的・心理的・社会的働きを用いて、心身の障がいの回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用する事」としています。この講座では、言語発達に遅れのある子どもを中心に、音楽を使ってどのように働きかけるのか、その介入の構造・理論について実際場面のビデオを紹介しながらお話しします。

講師略歴

・国立音楽大学器楽科(ピアノ)卒業。
・学芸大学院発達支援方法学修了
・日本音楽療法学会認定音楽療法士。
臨床発達心理士 桐朋学園大学非常勤講師
昭和音楽大学非常勤講師 創造学園大学教授
日本音楽療法学会評議員 日本音楽療法学会関東支部幹事。
・専門は、発達障害児(者)・高齢者の音楽療法。武蔵野障害者総合センター、特別養護老人ホーム「ゆとりえ」他、音楽療法講師。

6B ワークショップ

「ことばの教室」だからこそ、話し合っ、つながってみえてくることがある

國學院大學 野本 茂夫

多様化、深刻化する「ことばの教室」の問題や課題をワールド・カフェで考えます。全国各地から参加した先生が交流し、一人担当、経験の浅い担当、人事のこと、教育委員会・管理職の無理解、校内との付き合い、担当児童数、多忙化、研修、他職種との連携、幼児・中学生の指導、入級判定など、同じように困っている問題や課題について、対話を通して新しい発想やアイデアを創出し対策を見つけます。

○ 閉会式 次回大会のお知らせ

【16:10~16:15】